



「まるで別邸」をテーマに、随所から一般住宅感を打ち消した事により極上の空間に仕上がりました。

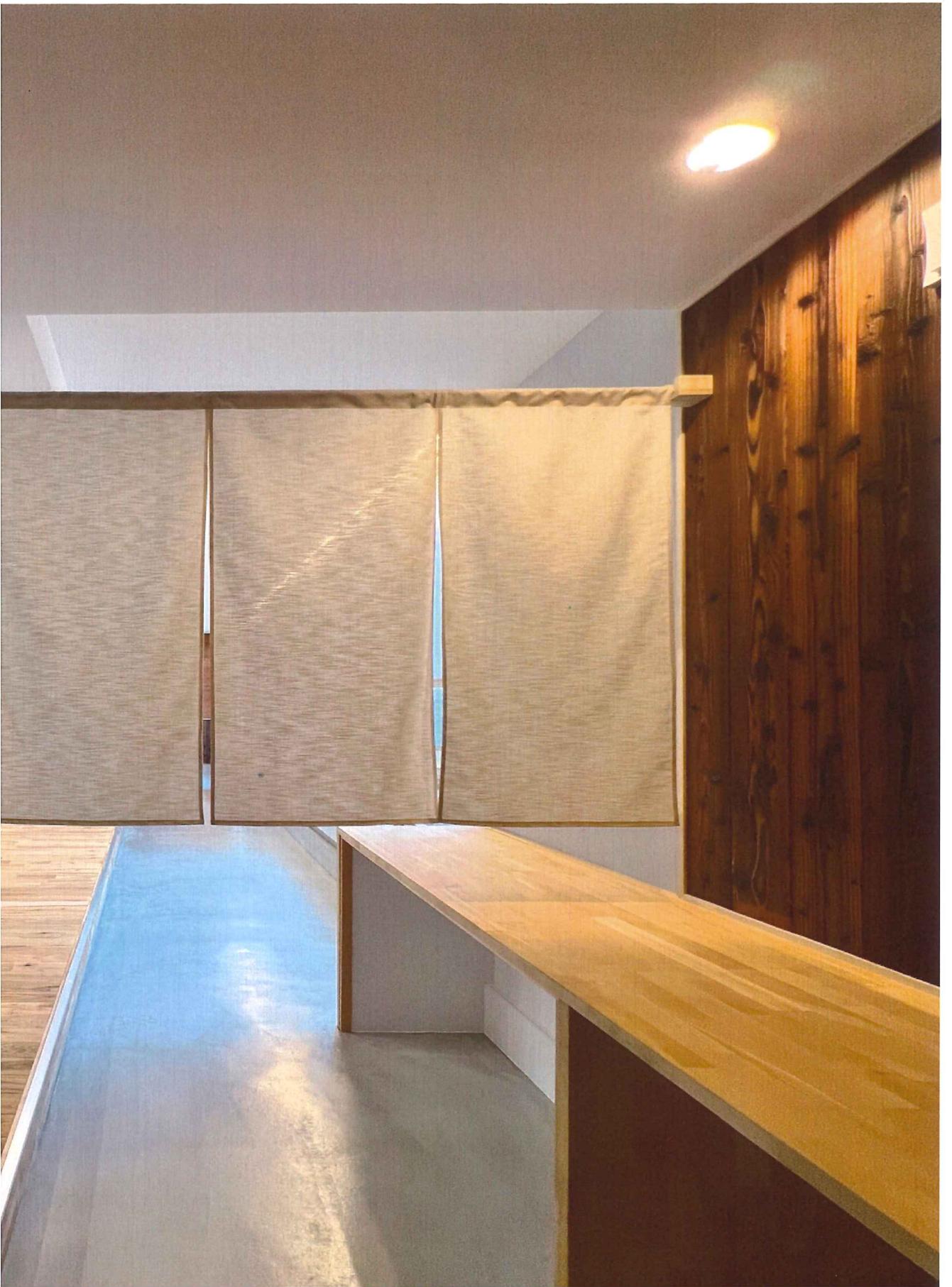
松島 潤平 建築家

R+house

国立競技場を設計された建築家、隈研吾先生が事務所を開設した当初20名のメンバーのひとりである。

たぐい稀なほどの仲良し夫婦、そしてワンちゃん。四六時中一緒に過ごし、喧嘩もないと聞いています。その家族の時間が少しでも充実するように考え抜いたプラン。家に居ながらもまるで別邸にいるかのような非日常を感じるように、一般住宅ではありえない、広い空間や窓をあしらい、ひとつの部屋の中にいくつもの居場所をつくりました。私たち人間に完成形とか、終点の形がないように、この家も建物だけで完成はしません。そこにDIYした家具や小物、センスの良い飾りにて、ほちほちと雰囲気をつくり、家と一緒に年齢を重ねていくことを楽しめる。そんな一風変わった住宅ができました。

生
き
て
い
る
家
。



五感で感じる上質感。

「名栗加工の室内縁側」「ステンレス巾木」
「格子建具」「障子」「間接照明」
「一枚ものの杉板TVカウンター」
「とちの木一枚ものダイニングテーブル」
どれもこれも職人の手で造られるものばかり。

上質なものを大切に使うという心地よさ。

昨今の既成品に慣れてしまった世代には
受け入れられないようなものばかりですが
本物の価値を知る人にぜひ
ご観賞いただきたい住宅が完成しました。

見た目にも味わい深い風合い・佇まい

外壁は、本物の焼き瓦を使った瓦外壁
「SANGA(山河)」の「琥珀」仕上げ。アール
津が名付けた製品です。今、日本で販売さ
れている外壁材の最高峰の品質と美しさを
誇ります。

外からは、杉材を使った格子壁を少し回り
込み、色気のある玄関へといざなわれます
。このひと呼吸がとても味わい深く素敵です
ね。どう見ても高級和食店にしか見えません
。

そして、玄関ドアを開けると、これまた色気
のある暖簾が現れる仕掛けです。壁には
「焼き杉」を張りました。「焼き杉」は文字通り、
杉の板を焼いたもの。炭は腐らないという話
が無いように、炭化した状態であれば、菌類
が繁殖するために必要な養分がありません
から、優れた耐久性を発揮するのです。

また、見た目にも味わい深い風合い・佇まい
になるという点が大きな魅力！

内部の通り土間は、愛想の無いモルタル仕
上げ。



日本古来からの加工技術、名栗。



南側の大きな窓から差し込む光が「なぐり（名栗）加工」の板が張られた室内縁側に色気を醸し出しています。名栗加工は、一般的な平たい仕上げとは異なり、全体的に躍動感があり、光によりその表情が変化する とても上質な空間をつくり出します。

これは奈良時代から始まったという説もあるほど長い歴史を持つ日本の伝統技術であり、もともと

は虫食いを予防するために生まれたそうです。

この加工は大変手間がかかる為、贅沢品の象徴ですが、足の裏でその贅沢を感じて欲しいですね。

その名栗加工の奥に見える腰板は、焼き杉を施し、その上壁には味わい深い和紙クロスを一般的な貼り方とは異なる、画像のような重ね張りで施工しました。これまた色気が漂いますね。

IMAGIN

外を見れば春を待つ田園風景になんとも素敵な「桜」。縁側に腰を掛け、丸いお盆に湯のみと和菓子を入れて横にちょっと置く。両手で丁寧に湯呑みを持ち上げて、ふっとひと息をかけてからお茶をすする。そんな光景が頭に浮かびます。

京都の町屋を思わせる、通り土間。



UNCOMMON

ステンレス巾木はとても高額ですので、なかなか一般住宅で使われることのない商品です。しかし、どうしても別邸の雰囲気をつくり出したい、このような特別なものを使いました。

内部の通り土間は、モルタル仕上げにクリア塗装を施し、オシャレなブティック等で見かけるようなテカリを持つ仕上げとし、人の手でつくった「味」を生かしました。

モルタルは、もちろんあちこちにヒビも入りますが、それがまた良い「味」であり、なんだか下駄を置きたくなるくらい。京都にでも出掛けた気分で自宅に帰れます

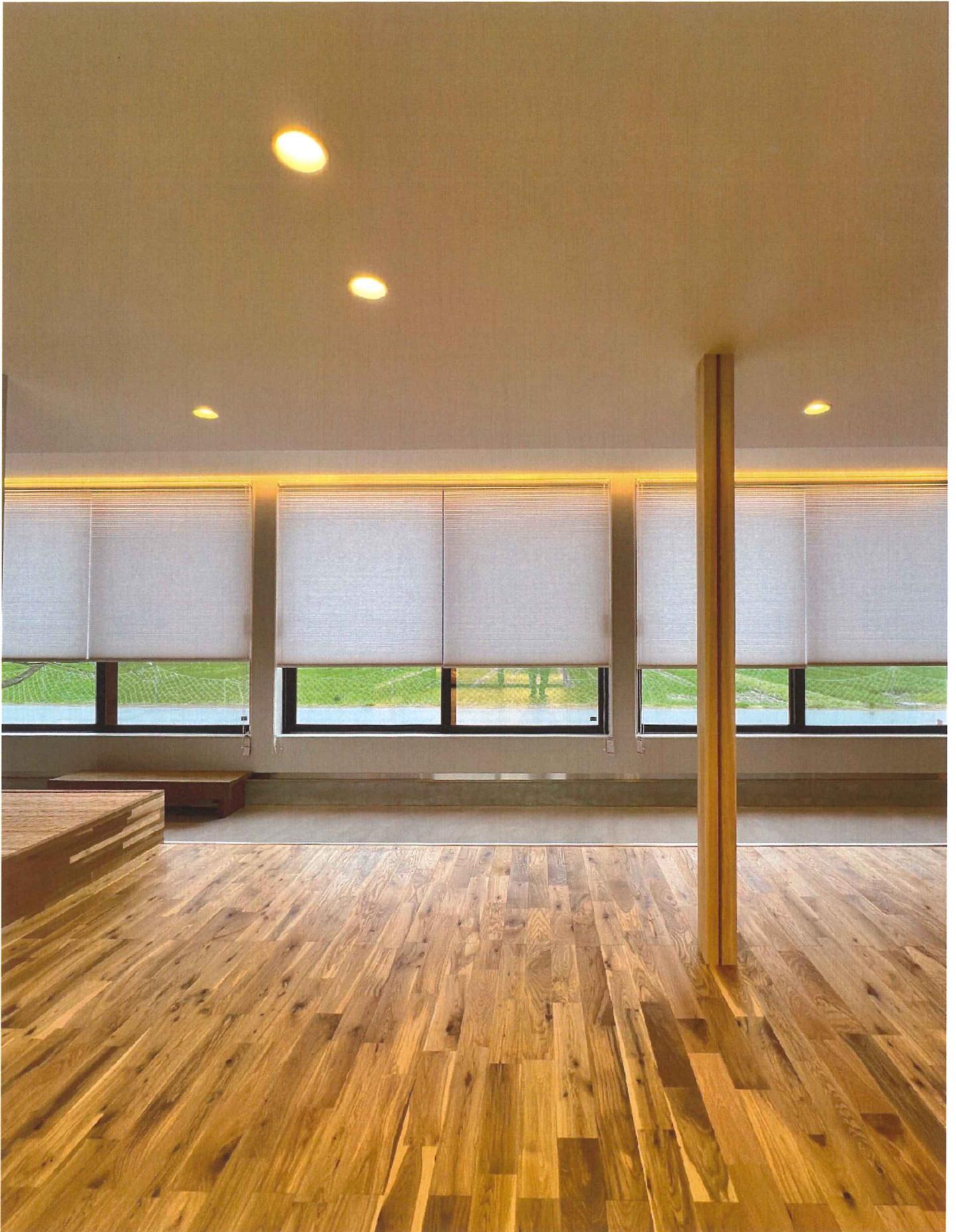
窓の内観はブラックにて、外の景色の邪魔になりにくいように窓枠もスリムタイプを使用。天井も一段上げて、間接照明を仕込んでいます。

どんなものにも人の手がかかり、一生懸命に作りだしたものだということを心の底から感じ、次の世代にも伝えて欲しいものです。

豊かな人生は感謝をすることから始まるのです。



トップオープン・ハニカムブラインド。昨今の暑さ寒さ対策として人気沸騰中のハニカム構造スクリーンですが、こちらはさらに上部も下部も開けられるという優れモノ。

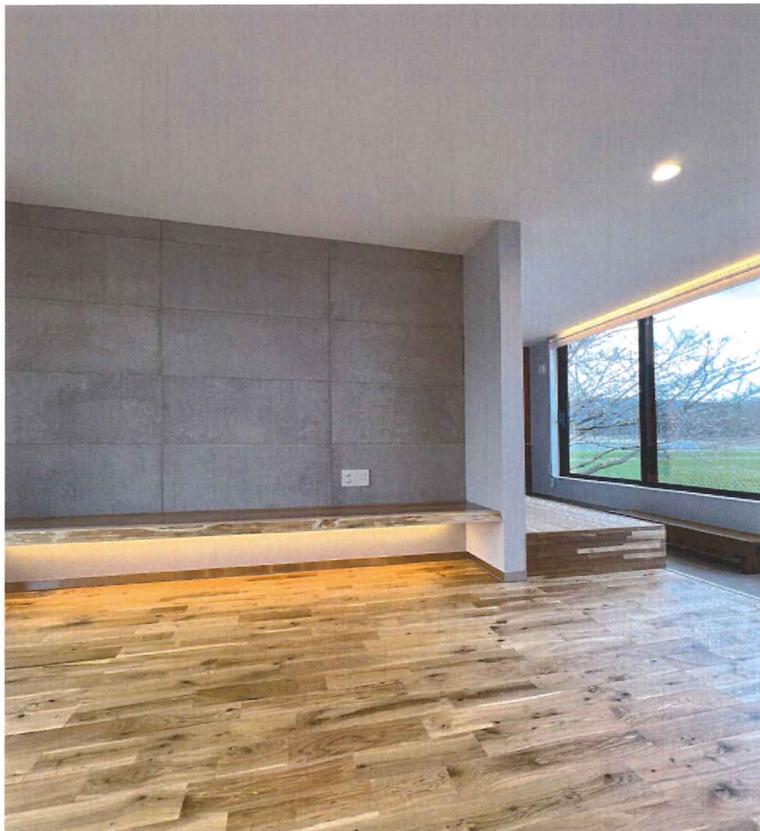
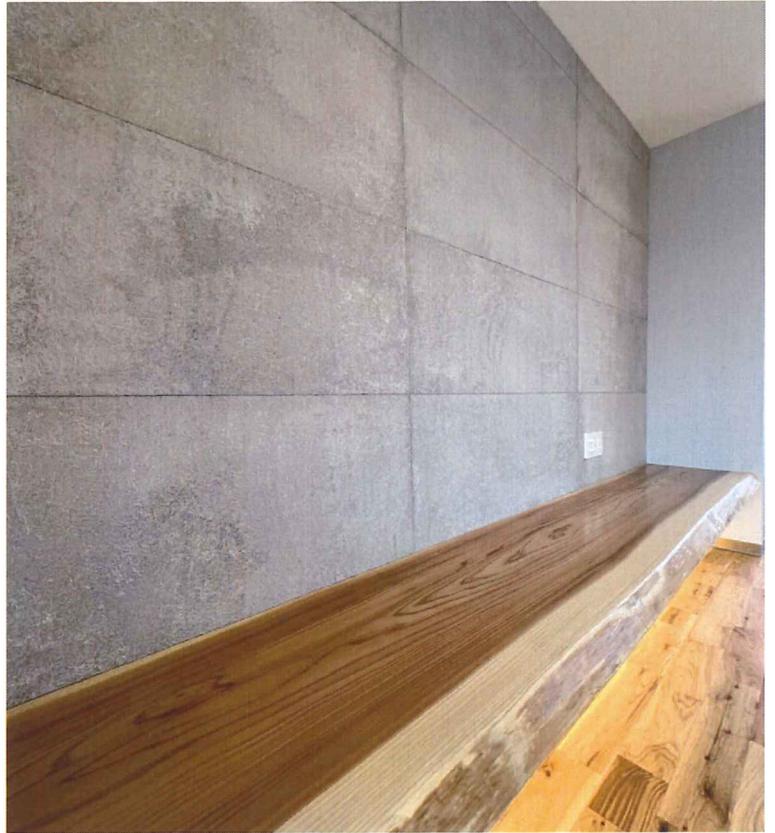


スクリーン上部には間接照明を仕込みました。トップオープンスクリーンは、こうして下部を開けることも可能。何とも素敵な空間を演出してくれますね。立地条件等によっては素晴らしいアイテムですよ。

Cedar Board

杉板カウンター

このTVボードは、杉の1枚板を加工して施主様に磨き上げていただき作り上げたものです。こちらのTVボードの下には間接照明が入っています。床と壁の間に付けられた巾木も一般的なものではなく、ステンレス製を使い、これまた住宅感を消し去ろうとしました。別邸感を出すためには、自然素材の中にこういった無愛想な設えを取り入れることで「違和感」を生み、日常感を消し去ります。



Sement Wall

素材は自然のセメント

Inorga インオルガ

モノトーンでありながら、個性豊かな意匠性。

TV背面の壁にはセメントで作られたタイル「INORGA」を張り、室内にコンクリート本物の質感を再現しました。無機質なものと対照的な自然素材である一枚板TVボード。これにより、お互いに引き立て合っていて「INORGA」も素敵に見えますし、一枚板も素敵に見えるのです。

寝室には扉がありません。暮らしに合わせたデザインですので、理由は必要ありません。「生きている家」様の寝室に扉はいらないのです。

できる限り、身体に悪い部材は排除して健康素材にお金をかけたいたいものです。



Pet Friendly

ペットフレンドリー

Bolon ボロン

世界中で15の環境、健康認証を受けたアイテム

寝室に敷かれたスウェーデン生まれの織物床タイル「ボロン」は、世界が認めるやさしさを持ち合わせた床材です。一見、普通の畳のようですが、糸が織りなす奇跡の床材と言われ、イ草とは全く異なる製品であり、他社の和紙やポリプロピレン樹脂を畳表に使用した人工畳と摩耗度を比較しても、圧倒的な強度やクッション性を誇っています。汚れが染み込まず、ペットが爪で引っ掻いてもほつれない上に、環境に配慮した素材を使用している為、ダニやカビの心配がなく、ペットや赤ちゃんが寝転んでも安心して使うことができます。

このことからワンちゃんを2匹飼っているオーナー様は「ボロン」を採用されました。

High performance housing

高気密・高断熱

高気密高断熱住宅もこの10年で大きく進化し、今は最低でもC値が0.3以下でないが高気密住宅とは呼べないと感じます。この「生きている家」の数値は、家全体(166.74㎡)で隙間が20㎤あり、20/166.74となり、C値は0.119といった成績です。弊社ではC値は0.2未満と決まっていますので合格値となります。

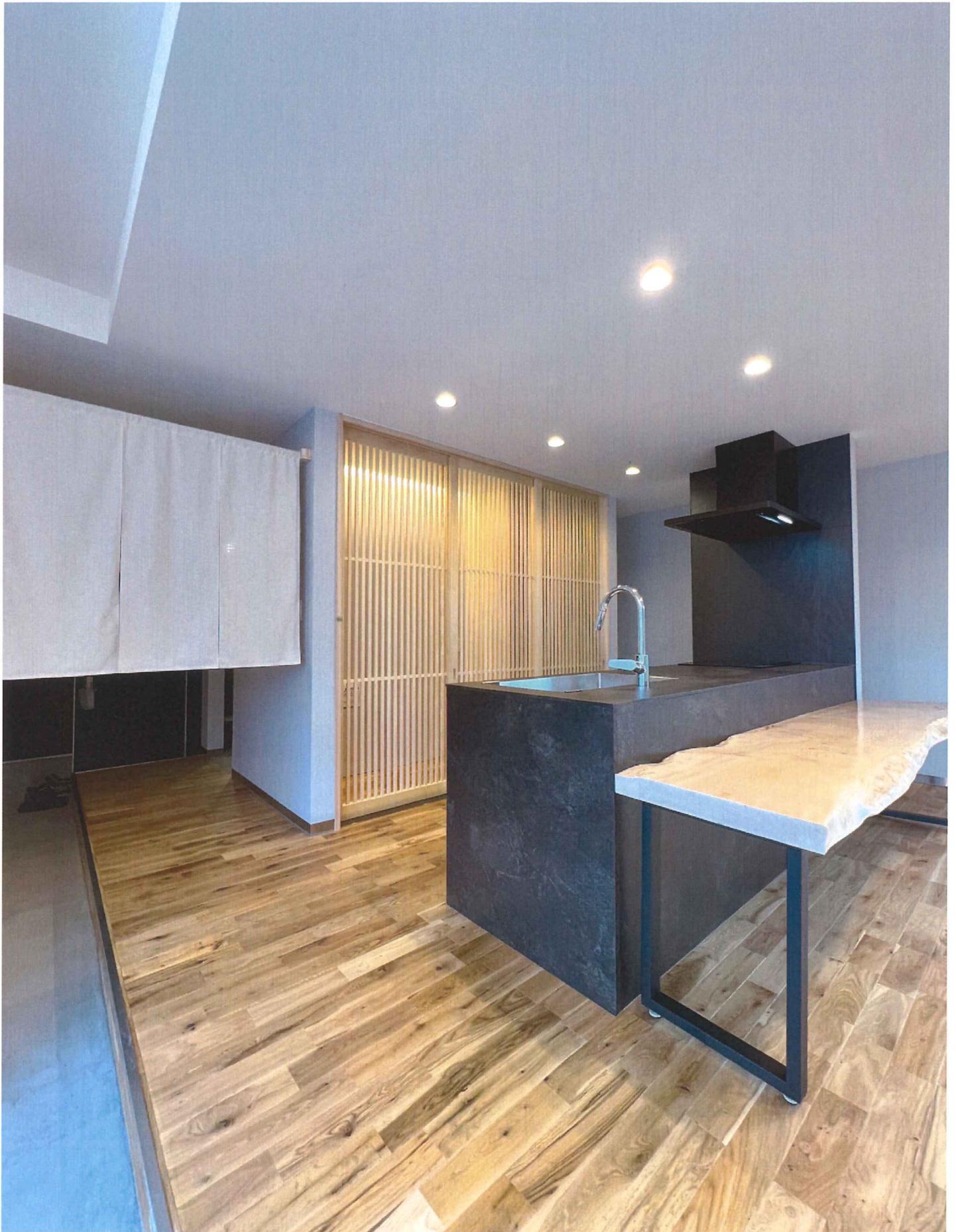
建築基準法では皆様の健康を守るホルムアルデヒド対策等のために、1時間に0.5回、つまり2時間で1回家全体の空気が入れ換わることを基準としていますが、これはあくまでも机上の計算値です。実際には家のあちこちに隙間があると、この通りに換気ができるわけがありません。 unnecessary 隙間を全てシャットアウトしてこそその基準となるわけです。つまり、高気密にすることで「健康を害さないために必要な換気がきちんと取れた住宅ですよ」といった証明になるものです。また、この数値が良いということは、それだけ丁寧に気密処理をされ、歪みの少ない上手な施工といった証にもなります。

高気密高断熱住宅では「気密測定」は必ず必要なものですので、確認しておくことが大切です。



食育基本法において「食育」は、「生きる上での基本」であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけられています。

「食は健康の源」
お家ご飯の時間も丁寧に楽しみたいですね。





Kitchen house
Haute couture

キッチンハウス オートクチュール

Mercurio メルクリオ

kitchenhouseオートクチュールで整えられたキッチンは、「メルクリオ」カラー。この和の象徴のような配色を活かした設えはどの年代の方がご覧になられても美しいの一言でしょうね。

Horse chesnut

枳一枚板カウンター

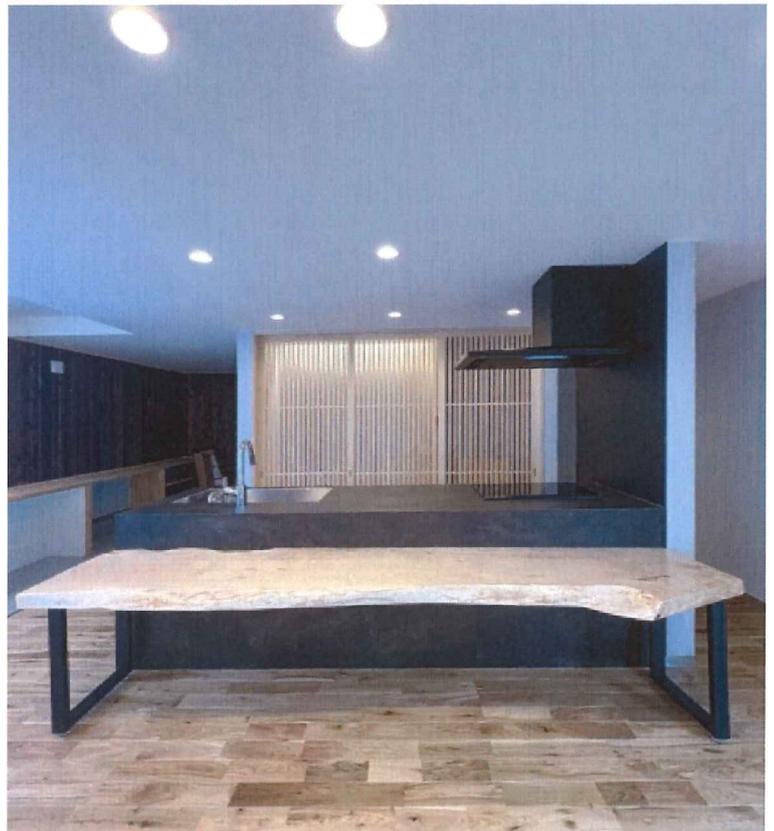
背面収納は格子扉で設えました。その中に落ちる間接照明がまた素敵。

枳の木一枚板カウンターでの食事はお酒もすすむ事でしょう。お寿司屋さんにも訪れたかのような。さりげなくIHクッキングヒーター横の壁に張られたキッチンパネルにも注目ですね。

この格子扉が素敵だ！とインスタで見ても真似をしたところで、こんな設えにはならないことでしょう。

この格子扉を引き立てる収納の中の間接照明。そしてメルクリオカラーのキッチン。

また何よりも引き立て合っているのが実はキッチンパネルです。まるで石を張り付けたようなこのデザインが、「石＝格子＝和」と結びつき、お互いを引き立て合うのです。



建築家



松島 潤平 / Matsushima JP

🐦 twitter ID : matsushimaJP

素晴らしい学歴を持つ実力派建築家。
国立競技場を設計された建築家隈研吾先生が事務所を開設した当初20名のメンバーのひとりである。

北海道大学大学院 准教授
博士（学術） 東京工業大学
一級建築士 第362861号

略歴 / Biography

- 1979 長野県生まれ
- 2003 東京工業大学 建築学科 卒業
- 2005 東京工業大学大学院 建築学専攻 修士課程 修了
- 2005 隈研吾建築都市設計事務所 勤務
- 2011 松島潤平建築設計事務所 主宰
- 2016 芝浦工業大学 非常勤講師
- 2017 武蔵野大学 非常勤講師
- 2018 東京工業大学大学院 建築学専攻 博士課程 単位取得退学
- 2019- 東京大学 非常勤講師
- 2021- 北海道大学大学院 工学研究院 准教授

著書 / Literary Works

- 2018 『子育てしながら建築を仕事にする』 学芸出版社（協著）
- 2011 『アーキテクト2.0 2011年以後の建築家像』 彰国社（協同編著）
- 2009 『1995年以後--次世代建築家の語る現代の都市と建築』 エクスナレッジ（協同編著）

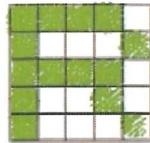
受賞歴 / Awards

- 2020 『2020年度グッドデザイン賞』 受賞 > SPBS TORANOMON
- 2016 『2016年日本建築学会作品選集新人賞』 受賞 > “育良保育園”
『ベスト・オブ・ハウス 2016 デザイン賞』 受賞 > “Text”
- 2015 『2015年度グッドデザイン賞』 受賞 > “Le MISTRAL”
『JCD Design Award 2015』 Best100 > “Le MISTRAL”

隈研吾建築都市設計事務所 担当作 / Works in Kengo Kuma and Associates

- 2011 ガーデンテラス宮崎
- 2011 Mesh / Earth
- 2010 橋原・木橋ミュージアム
まちの駅ゆすはら
東急キャピトルタワー / ザ・キャピトルホテル東急
- 2007 大阪朝日放送新社屋
- 2006 隈研吾建築都市設計事務所ANNEX内装
- 2006 ARCHITEXTURE

「家の差は、職人の差」



R+house®

R+house 津 (株式会社高正工務店)

〒514-0027 三重県津市大門1-32 TEL:059-229-7200
営業時間：09:00～23:00 年中無休 (要予約)

R+house津では、お客様の意に沿わない追客活動をすべて放棄します。